

いしや先生

町おこし映画顛末記

①

先月半ば、西川町で「志田周子」の生涯を銀幕へ甦らせる会」の発足式が行われた。当日は猛吹雪。今年初めて大雪警報が発令されるというおまけつきだ。それにもかかわらず、170人もの方々が県内外

から集まった。会場の熱気に私の胸は熱くなる。ああ、これでようやく本当のスタートラインに立てたのだ。



あべ 美佳

▽あべ・みかさんは1971年尾花沢市生まれ。2002年、日本テレビシナリオ才登龍門優秀賞。04年、国際ドラマアワード2009ローカルドラマ賞受賞。初の小説「雪まなま」が「2013 若い人に贈る読書のすすめ」に選ばれる。

志田周子(しだ・ちかこ) 医師。1910(明治43)年左沢町(現大江町)生まれ。東京女子医学専門学校(現東京女子医科大)を卒業後、無医村だった大井沢村(現西川町)に医師として着任した。豪雪地帯での地域医療を一手に担い、村議や婦人会長も歴任。62年に引歳で死去した。

文化

志田周子への思い込め

ふるさとの役に立てないから自ら手を挙げてみたもの、そのお役目は想像をはるかに超えた難儀なものだった。それがまた愉快で、実にやりがいがある。映画化の可能性を探りつつ東京で右往左往するうちに「映画を作っている裏側のほうがよっぽどドラマチックだ」とも思ってしまった次第。というわけでこちらに顛末記を書かせていただけるはこびとなった。はてさて、映画は完成まで辿り着くのか? 皆さんにもこの可笑しくて温かい、もう一つの物語を見守ってもらえれば幸いだ。

おらが町の宝物・志田周子への思いは皆それぞれ。紙芝居、朗読劇、歌……それぞれが思いを込め、周子先生の生涯を讃えた。私を含めた製作陣の講演も終了し、ユニークで熱のこもった町長たちの談話も終わ



り、とても良い感じで発足性が声に出して言うてきた。式は終わりに近づくと、さうさうと誰もが思っていることだろう。の手が上がった。「1億円なんて大金、どうやって集めるんですか? それに1億5千万の寄付金なんて……」だよね、5千万円で大金だよ。まして1億円もかかる映画を作って……私が一町民なら、体どんなメリットがあるんだが……私が一町民なら、きつと同じことを質問したと思う。時間がない中、すべての答えをお伝えするお伝えすることほできない。なかつた。でもどうか、皆がやろうとして、いることを見ている。いいというお願いを、私にした。今なぜ、映画で町おこしたのか。自分たちの取り組みで

11月1回掲載します